

見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち



| May | | | | | | |
|-----|----|----|----|----|----|----|
| S | M | T | W | T | F | S |
| | | | | 1 | 2 | 3 |
| 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
| 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 |
| 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 |
| 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 |

May 2025 vol.133

◆天満神社

所在地：蒲郡市形原町

交通：名鉄蒲郡線「形原」駅北約1km

神社の鳥居は、神域と俗界を分ける境に立てられており、鳥居の内は神域とされ、神社の神聖さを象徴する建造物となっています。しかしながら、その構造的な特殊性から、しばしば地震により倒壊する事例が発生しています。

2022年6月に発生した石川県能登地方の地震では、珠洲市の中心市街地にある春日神社の鳥居や、火宮神社の鳥居が倒壊しました。同じく石川県能登地方で2023年5月に発生した地震では、珠洲市内で少なくとも9つの石製や木製の鳥居が倒壊しました。2024年1月の令和6年能登半島地震では、2022年6月の地震で倒壊し、クラウドファンディングや寄付なども活用して再建されたばかりであった春日神社の鳥居が、再び倒壊する被害が発生しています。このほか、1995年の阪神大震災では、神戸市の生田神社で、2011年の東日本大震災では、山形県の光丘神社や茨城県の鹿島神宮で鳥居が倒壊しています。2016年の熊本地震では、596基の鳥居が被害を受けた報告があります。

過去の地震でも、鳥居が被害を受けた記録が残されています。蒲郡市の天満神社の鳥居は、いまから80年前、昭和20(1945)年1月に発生した三河地震で倒壊しました。倒壊した鳥居の根元は、現在もそのままの形で残されています。愛知県内の記録を見ると、宝永4(1707)年の宝永地震や嘉永7(1854)年の安政東海地震、明治24(1891)年の濃尾地震、昭和19(1944)年の昭和東南海地震など、大きな地震のたびに、各地の神社で鳥居が倒壊しています。

鳥居の構造規定について、建築基準法では、鳥居は工作物として取り扱われる場合が多く、広告塔などと同様に4m超で建築確認の対象とする場合や、煙突などと同じ6m超で対象とする場合、鉄柱などと同じ15m超で対象とする場合があります。現状、建築確認を取り扱う特定行政庁（都道府県、政令市などの建築主事の職員を置く自治体）の判断に委ねられています。また、建築基準法が施行された1950年以前に建てられた鳥居については、そもそも法律が適用されていません。

近年では、石柱の中央部分をくり抜き強度の高いPC鋼棒を通し、石と石の接合部分には耐震ゴムをはさむなど、地震に対する強度を向上する工法も開発されています。2025年3月には、京都の伏見稻荷大社で鳥居の耐震補強工事が完了しました。伏見稻荷大社の鳥居は、高さ9.2m、幅8.6m、昭和35(1960)年に参道に建てられたもので、経年劣化に対する補修と併せて、能登半島地震を契機に耐震化の必要性が議論され、2024年7月から、地中に梁を埋め込んで柱を組み、柱の表面は鋼板で、屋根部分は炭素繊維で補強する工事が実施されていました。

鳥居は神社のシンボルでもある、重要な建造物のひとつです。倒壊すれば、地震からの復旧復興のさなか、再建に多大な費用を要します。近年、地震により鳥居の倒壊が相次ぎ、耐震性についての意識が高まっており、技術開発や、耐震補強などへの技術の活用が期待されています。



天満神社の倒壊した鳥居



◆災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していただくとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。



◆見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち バックナンバーから

●形原神社 (vol.9,2015.1)

所在地：蒲郡市形原町

交通：名鉄蒲郡線「形原」駅北西約1km

昭和20(1945)年1月13日に発生した三河地震は、三河湾内の中央構造線付近から大きく曲線を描きながら西尾市にまで達する深溝断層において、西南西側の三ヶ根山地が隆起して突き上がった結果発生した地震で、断層が隆起した地帯及び地盤の軟弱な平野部で比較的被害が大きく、蒲郡市西南部(旧形原町)でも全壊率が高くなっています。昭和20年1月18日に警察に報告された「三河地震被害調書」によれば、旧形原町内8町内会で、住家1931棟中、全壊368、半壊955、破損524とされ、ほとんどの住家が被害に遭い、209名が亡くなったとされています。

昭和52年に蒲郡市が震災当時の状況を取りまとめた「わすれじの記」には、旧形原町前野地区の被害の記録があり、

住居家屋の被害が大きかったこと、死者の大部分は、大激震で瞬時倒壊した家屋の鴨居や梁で頸骨や頭骨、胸骨などを押しつぶされて、一瞬にして圧死したものであること、などが記されています。また、2階部分そのまま1階になってしまった屋敷の記録も残されています。

被害の大きかった旧形原町の犠牲者の霊を慰め、且つまた後の世の戒めとするため、33回忌の昭和52年1月13日に、形原神社境内に「わすれじの碑」が建立されました。碑文では、「当時の惨状に思いを新たに、非命にたおれた人人の霊を慰めるとともに、永く後世に伝えるべきしるしを残すということは、まさに生き長らえることを得た者の果すべき重要な課題であると考え、(後略)」とし、教訓を後世へ伝えることが強く意識されています。



◆詳細は、見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち vol.9 (<https://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/rekishijishin/geppo.html>) をご覧ください。

★森、道、市場

森、道、市場は蒲郡市のラグーナビーチ(大塚海浜緑地)と、隣接するテーマパーク・ラグナシアで毎年5月に開催される「モノとごはんと音楽の市場」です。(2025年は5月23日(金)から5月25日(日))

会場内のステージでは、常時アーティストによるパフォーマンスが行われ、心地よい音楽とともに、日本全国の素敵なモノ・おいしいごはんに出会うことができます。ラグナシアの遊園地キャンプサイト、ラグーナビーチの海キャンプサイトがあり、キャンプ道具を持ち込み、2日間、3日間通してイベントを楽しむこともできます。海キャンプサイトではバーベキューも可能です。また、日帰り用のデイキャンプサイトやRESTZONEも用意され、それぞれに自由な楽しみ方でイベントを満喫できます。



～鉄道で巡る～

名鉄蒲郡線(通称にしがま線)は、西尾市の吉良吉田駅から蒲郡市の蒲郡駅までを結ぶ17.6km、10駅の路線です。沿線には形原温泉、西浦温泉などの温泉地や、竹島水族館を始めとしたレジャー施設があり、潮干狩りや海水浴なども楽しめます。近年は利用者数が激減しており、みなし上下分離方式を採用するなどの支援を受けながら存続されています。



photo ACより

●ブレイクタイム●

♪竹島水族館

竹島水族館は、地元三河湾の海の生き物を中心とした展示の水族館で、2024年10月にリニューアルオープンし、日本で4番目に小さな水族館から、面積が2倍になりました。

展示の主役はタカアシガニで、地元の漁師や漁協の協力により、大型で脚の欠けていない個体が優先的に分配されます。また、常時、全国トップレベルの深海生物の展示があり、世界でも竹島水族館でしか見られない貴重な深海生物を、親しみのあるパネル展示や解説で紹介しています。



がまごおり、ナビHPより

◆この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆この地域の歴史災害記録をオンラインツアー形式、マップ形式で紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『災とSeeing』のホームページ(<https://www.saitoseeing2020.jp/>)をぜひご覧ください。

(発行：減齋の会・名古屋大学減災連携研究センター 2025年5月)